

— 妙義山の天狗さん ☺ —

日本のお山には天狗さんがあります。たくさんあります。たくさんいるということは、その内部構成も小童から大物まで様々です。その全国の天狗さんの中で妙義の天狗さんはどうい立ち位置の方なのか、ちょっと深掘りしてみようと思います！

妙義山には有名な天狗が3狗もいる!!

あまりにも力の強いスゴイ天狗さんは、単に「天狗」と呼ばれるのではなく名が付きます。そんな天狗さんは全国でも少ないのですが、なんと妙義山には名のある天狗が3狗もいるのです!!!

上野妙義坊

No.1

北関東の天狗の中でもかなりの古株!! 妙義山の天狗の長老です。誰もが認める大天狗といえばこの方!

妙義山日光坊

No.2

もともとは日光の天狗でしたが、妙義山にあこがれて日光から妙義に移ってきた大天狗。まじかの山替えをした珍しい例。

長清法印

No.3

江戸時代に生きていた長清という名の行者が、めちゃくちゃ修行してとうとう天狗になったと言われている。ハイパー山伏!

上記のお三方共それぞれにスゴイ天狗さん。名前が付いているということはそれだけ他の天狗たちよりも秀でていたということです。

ちなみに北関東は全国でも天狗のお話がたくさんある所。天狗パラダイス ☺☺☺ なのですが、数が多いせいとかほとんど名前はありません。そんな中こんなに名のある天狗の集まる妙義山は天狗のメッカと呼んでもいいのかもしれないわ!

天狗のルーツは?

最も古くは古代中国で流星を「天狗」と表記し、悪いことの起る予兆と恐れられていた所から始まります。日本で最も古い記述では『日本書紀』(634)に流星が「天狗(アマツツネ)だ!」と書かれています。

その後『空を飛ぶ』というキーワードから日本の天狗はトビやタカのような姿で描かれるようになり、今言われるカラス天狗が生まれます。

鼻向天狗よりもカラス天狗の方が歴史が古いんですね!

ところで天狗ってみんな山伏の格好してますよね。なぜでしょう?

日本文化において、得体の知れないものは皆、山に祀られています。天狗もそう。そしてその山に入って修行をするのが山伏。だんだんその山岳信仰『修馬食道(しゅばんどう)』と天狗が文化的に混ざっていくのです。天狗を山の神として祀るようになったり、修行した山伏が天狗になった! という話が出てきたりします。(長清法印はこのパターン!) ただ、当時のイメージであった仏教的には「神が鳥の姿なのはちょっとやがらんじゃね?」という風潮があり、約1500年頃、今の私たちになじみのある鼻高天狗が生まれました。この時のエピソードもおもしろいのですがスペース的な問題で割愛します。(そのうち展示つくまわ)

上記三天狗の中でもやはり長老の上野妙義坊は全国的に有名で、密教の経典『天狗経』の中にバッチリ登場しますし、奈良時代に役小角(修馬食道の開祖)が全国から召集した大天狗たちの中にも名を連ね、江戸時代の天狗番付でもしっかり年寄枠にランクインしています。

妙義神社には本屋敷裏に天狗さんがちゃんと今でも示られています。妙義に来たらまずは天狗さんにごあいさつしよう! じつないと天狗がくしにあっちゃうぞ!

